

完全になることは到達可能な目標か

Copyright©2014 Mormon Outreach Ministries, Sydney

末日聖徒イエス・キリスト教会（通称モルモン教会）第12代大管長スペンサー・W・キンボール氏は、神は子供に完全なものとなることを要求しており、それは到達可能と述べています。

永遠の命に向かっての進歩は、完全な者となることを意味します。すべての戒めに従って生きること、すべての罪の赦しが保証され、主が私たちに与えた基本原則を遵守することで完全な者とされ、昇栄¹が保障されます。山上の説教で、イエスはすべての人に命令を与えました。「それだから、あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全なものとなりなさい」（マタイの福音書 5:48）完全な者になるとは、罪に打ち勝つことを意味します。これは主からの命令です。主は公正で、賢く、情け深い方です。達成不可能なことは要求しないでください。完全になることは達成可能な目標です。
(The Miracle of Forgiveness, pp.208-209 quoted in The Life and Teachings of Jesus Christ & his Apostles, p.386)

イエス・キリストは、マタイ福音書 5:48 で「それだから、あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全なものとなりなさい」と命令しました。福音主義クリスチャンとモルモン教会員はどちらもこの命令を真剣に受け止めています。聖書とモルモン教会は、完全になることは達成可能な目標ということで意見が一致しています。これは、完全になる目標に向かって私たちは努力すべきであり、最終的にはそれに達成できることを意味するのでしょうか。聖書はこのことを否定しています。英語圏のモルモン教会員が使用する『欽定訳聖書』では「完全なものとなりなさい」(be perfect)と現在時制に翻訳されていることに注目すべきです。神は天の父が完全であられるように私たちはたった今完全でなければならぬと要求されました。しかし、モルモン教会はマタイ福音書 5:48 の「完全なものとなりなさい」というイエスの命令は「将来の完全」であり、モルモン教会員は完全になり、最後には「昇栄」「永遠の命」または「神々となる」ことを遂げるかもしれないと教えているようです。聖書はどうしたら現在完全でありうるかを教えているのでしょうか。マタイ福音書 19:21 で、永遠の命を切望している金持で道徳的な青年に、イエスはどのようにしたら『完全になる』かを教えています。

モルモン教会指導者の教える「完全になること」と聖書の教えを慎重に比較してみましょうここでは、次の三つの問題を取り上げて進めていきたいと思います。(1) マタイの福音書 19 の金持ちの青年の話。(2) ほかに何が足りないのでしょうか。(3) 完全になることは到達可能な目標でしょうか。聖書は日本語圏のモルモン教会員が好む日本聖書協会の『口語訳聖書』を使用しています。モルモン教正典の一部である『モルモン書』と『教義と聖約』、公式学習教材の『福音の原則』（2009年）、The Life and Teachings of Jesus & His Apostles (1979年)と非公式の学習教材であるスペンサー・W・キンボール大管長筆の『赦しの奇跡』（1999年）を用いました。

1 マタイの福音書 19:16-26 「永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか。」

金持ちの青年がイエスのもとに来て質問をしました。「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」(16)。青年は良い業をすることで永遠の生命を得ることができる、また、青年は厳格に神の掟を守ってきたとも固く信じていました。しかし、まだ何かが欠けていて、さらにしなければならぬことがあるとも感じていました。しかし、イエスは、17節で、青年がやってきたことは十分に「良い」ことではなかったと述べています。

イエスは青年の質問に答えました。「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。」神だけが聖なる方で完全な方ですが、人は罪深く、不完全です(詩篇 14:3、伝道者の書 7:20 参照)。青年は本質的に「良いこと」とは何か、また神が要求されている「良いこと」の本性は何かの確信がなかったのです²。自分を他人と比べるのではなく、神と比較すべきだったのです。「良いこと」の考え方を変えないかぎり、天国からかけ離れていることとなります。

イエスは神の幾つかの戒めを挙げて話を続けました。「...もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。」(17) イエスは「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。父と母とを敬え。あなたの隣り人をあなた自身のように愛せよ」といった戒めに言及しました(18-19)。こういった戒めはほかの人をどのように扱うべきかということを取りあげています。青年は「それはみな守ってきました」と返答しました³。

青年はおそらくイエスの戒めの言及に落胆したことでしょう。彼は信心深いユダヤ人として戒めを暗記していましたから、それ以上の何かを期待していたのです。青年は「ほかに何が足りないのでしょうか」と問いました。そのとき、イエスは彼にこう述べました。「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。」「イエスの 21 節の返答は真に何かをすべきだということですが、しかしそれはあまりにも急進的であり、青年の全生活様式の土台を崩して、全てを神の自由に任せるというものでした」(R. T. France)⁴。完全になりたかったなら、彼にとってその妨げになっていたものを取り除いて、全霊を傾けてイエスに従うべきでした。イエスはこの青年にとって富が霊的成長の妨げになっていたことを見抜いたのです。青年は「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」という、最も重要な第一の戒めを破っていることに気がつかなかったのです。彼の富が自身と神への奉仕の間に妨がっているために、彼は永遠の命を逃すことになったことでしょう(22)。

イエスは弟子たちを驚かせました、皆金持ちは神に祝福されていると考えていたからです。イエスはさらにこのように述べました。「富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」(24)。この金持ちの青年は自分の富を信頼していました。彼はらくだの穴を通るのにはあまりにも大きく、自足でき、誇りがありました⁵。純粋な信頼や神に対する子供のような依頼心に欠けていました(マタイ 19:13-15)。大人は自分の強さと知恵に頼りがちです(18:3)。「自分を義人と自認して」いる人は自分の善良さに頼りがちです(ルカ 18:9-14)。こういった態度は永遠の命の相続を不可能にしてしまうのです。

弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言いました。「では、だれが救われることができるのだろう」(25)。「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」(26)。永遠の命を賜うことは必ず神の御業です。私たちは子供のような単純な信仰をもって十分にへりくだって神を信頼しなければなりません。子供は利己的で、高慢、無節

制になることがあります、彼らはしばしば、大人にめったにない何か、つまり、信頼心と完全な依頼心があります⁶。人間にとって到底不可能なことを神は可能にして下さるのです。

2 「ほかに何が足りないのでしょうか」それについて話しましょう。

キンボール氏はこう述べています。「完全なものとなるにはすべての罪に打ち勝つことを意味します。」また、「すべての戒めに従って生きることで、すべての罪の赦しが保証され、主が私たちに与えた基本原則を遵守することで完全な者とされ、昇栄が保障されます。」「わたしの戒めを守り、最後まで耐え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中でもっとも大なるものである」（『教義と聖約』14:7）。「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それではなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです」（『ニーファイ第一書』3:7）。

しかし、ヤコブの手紙 4:17 は「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である」と述べていますが、心の思いや態度、また不作為の罪をも含める罪をあなたは打ち勝ちましたか？ すべての戒めを守ってきましたか？もしそうでなければ、どうして本当に赦されていることが分かるのですか？⁷ ほかに何が足りないのでしょうか。

(ア) 「毎日、罪を悔い改めています！」

「毎日、罪を悔い改めています」と言われるかもしれませんね。そうなら、モルモン教会の教えに従って真摯に罪を悔い改めてきましたか（『福音の原則』19章参照）⁷。同じ罪を繰り返さないことは難しいと知りましたか。「すでに赦しを得ていながら罪を繰り返す人は、以前の罪にも責任を負わなければなりません」（『福音の原則』231頁、『教義と聖約』82:7）。ヨハネの手紙第一 1:8 はこう述べています。「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない。」

(イ) 「（罪を捨てようと）努力しています。」

あなたは、「（罪を捨てようと）努力しています」と言いますか。キンボール氏はこう述べています。「（罪を捨てようと）努力するのでは不十分です。悔い改めは単に罪を放棄しようとする努力だけでは不完全です...単なる努力は弱いのです。できる限りの努力は強くありません。私たちはいつも自分の能力以上の努力が要求されます」（『赦しの奇跡』164-165頁）。

自分自身の力と知恵で完全になることは、なんとたじろがせる期待でしょう。ヤコブの手紙 2:10 は、「なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである」と述べています。あなたは自分の心を知っています。小さい律法に背いたとしても、全体の律法に背くことになるのです。神の目から逃れることはできません（マタイ 22: 18 ルカ 6:8, ヨハネ 4:17-19）。いくら小さくて取りに足らない些細な過ちでもあなたを不完全にします。それでは、イエスは「あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全なものとなりなさい」と述べられた時、何を意味していたのでしょうか。

(ウ) 「人にはそれはできないが、神には何でもできないことはない」（マタイ 19:26）。

マタイによる福音書 5:48 は私たちはこの世で完全になれるとも、罪のない完璧に到達できるとも教えていません。こういった考えはマタイ 5章にも、聖書全体にも相容れません。何故なら、人間は根本的に罪人であるからです。聖書は罪は基本的には神に対する反逆で（創世記 3, ローマ人への手紙 1:21-23）、人は「咎ある者として生まれる」（詩篇 51:5）と教えています。人は「（先には）自分の罪過と罪とによって死んでいた者」（エペソ人への手紙 2:5）で「生れながらの怒りの子」（エペソ 2:1-3）です⁹。

マタイの福音書 5:43-47 でイエスは信者に律法の条文の表面的な遵守を超えるようにと教えています⁸。例えば、わたしたちの敵を愛することは 天の御父の子供たちの重要な要素です⁹。神が全ての人を愛するように、私達は正しい者と正しくない者を愛さなければなりません。しかし、愛だけが、イエス・キリストが彼の信者に要求される神の唯一の特徴ではありません¹⁰。イエスは神の完全を信者に要求します。マタイ 5:48 で、弟子たちに「あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全なものとなりなさい」と命令することで、イエスは神の標準が何であるかをはっきり述べました。私たちは自分の業で神の規準に達することができるのでしょうか？断じてできません！

マタイの福音書 19:16-26 の金持ちの青年は、自分には問題がなく、永遠の命を受けるにふさわしいし、イエスは彼の良さを認識してくれると思っていました。しかし、彼は十分に良いわけではありませんでした。十分に良い人はいません。あなたも私も含めます。これがイエスが指摘した点です。良いかたは神ただおひとりです。しかし、たとえ最も立派な人ですら、神の完璧な標準に到達しません。神は永遠の命に入る必要状条件を下げることはできません。完全であることは、私たちには不可能です。「人にはそれはできないが、神には何でもできないことはない」（マタイ 19:26）。神はあなたが神のみ前に完全であると宣言する道を提供されました。神の言葉は私は現在、完全であると述べています。私はどうしてそのように言うことができるのでしょうか。

3 完全になることは達成可能な目標。

まず、聖書は主イエス・キリストが私達を「きよめられた」（「聖なるものとされた」）ことで、この地上で今、永遠に完全とされることが可能と教えています（ヘブル人への手紙 10:10, 14）¹¹。どのようにしてでしょう。イエスは「罪を知らない方」でした（ヨハネ 8:46, コリント第二 5:21-ヘブル人 4:15）。天の御父が完全であるようにイエスは完全な唯一な方でした。イエスは完全であったので私たちの罪の贖いをする資格があったのです。私たちが贖いだされたのは、「銀や金のような朽ちるものによったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」（ペテロ第一 1:19）。

つぎに、聖書は、ただ一度イエス・キリストのからだがかさげられたことによって、信者はきよめられ（ヘブル人の手紙 10:10）、「きよめられた者たちを永遠に全うされた」（ヘブル人 10:14）と教えています¹²。信者はすでにイエスの十字架上の犠牲によって完全なものとされているのです。

さらに、聖書は、信者は完全という「地位」（状態ではありません）または、「聖徒」の地位（状態ではありません）を受けたと教えています¹³。私達は依然として罪の状態にありますが、神の目には「聖徒」です（コリント人への手紙第二 1:1, エペソ人への手紙 1:1）。このことは「信仰による義認」を意味します。「信仰による義認」とは神が私達を（信仰によって）義または完全と「宣言する」ことです。

そして、聖書では、イエスはご自身をいけにえとして、ただ一度、十字架上でささげ物になることにより、私たちのすべての罪の贖いが完成したと教えられています。私たちの全ての罪（過去、現在、未来の全ての罪）を神の債務証書から取り除いて、決して私達を責めたてることがありません¹⁴（ヘブル人 10:17, コロサイ人への手紙 2:13-14）。ヘブル人への手紙 10:17-18 は「さらに、『もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない。これらのことに対するゆるしがある以上、罪のためのささげ物は、もはやあり得ない』」と述べています。信じがたいことです。「神には何でもできないことはない」（マタイ 19:26）とあります。

結論：イエス・キリストが（十字架上の永遠のいけにえで）私達を「きよめられた」ので、完全になることは現在、この世で可能です。全ての戒めに従って生きることで永遠の命を継承することは恐ろしいことです。「よいかたはただひとりだけである」とイエスは述べています。 私たちはすべて弱くて、罪深いのです。私たちの生活の中で罪の存在が明らかであるにもかかわらず、「完全になる」ことをどうして話すことができるのでしょうか。あなた自身の知恵と力によって完全を達成しようとしているなら、あなたはマタイ 19 の金持ちの青年のようです。青年は、神の戒めに細心の注意を払っていましたが、永遠の命を受け継ぐのにはまだ達していないと感じていました。完全に達成するためには、他の戒めを追加するのではなく、イエスが喜んで提供して下さる完全（の無償の贈物）を謙虚に頂き、そして全霊を傾けてイエスに従っていくべきです。イエスに心をこめて従っていくことを妨げている私たちの躓きの石はなんのでしょうか。あなたは新約聖書のイエスを徹底的に信頼している幼子のような性質を持っていますか。あなたは、ほかに何が足りないのでしょうか。

脚注

- 1 『福音の原則』（モルモン教会公式の学習教材）は「昇栄とは永遠の命、すなわち神の生活そのものです。神は大いなる栄光のうちに住み、完全であり、すべての知識と知恵を備えておられます。神は霊の子供たちの御父であられ、創造主です。わたしたちは天の御父と同じようになることができます。これが昇栄です」と教えています。「昇栄の祝福」の一つに「神々となること」を挙げています。
(https://www.lds.org/bc/content/shared/content/japanese/pdf/language-materials/06195_jpn.pdf)（『教義と聖約』 132：20-23 参照）
- 2 Leon Morris, *The Gospel according to Matthew* (PNTC, ed. D. Carson, Cambridge, Apollos, 1992) p.489
- 3 「本当に青年はこういった戒めを、すべて守ってきたのでしょうか。もちろん違います。父と母を常に敬う子供とはどんな子供でしょうか。あなたを愛するように、隣り人への愛が 若い時から豊かに増し加わってきた人はどこにいるのでしょうか。青年はリストにある著しい罪を回避してきたとしても、彼は確かに全部の罪を回避しなかったでしょう。」 [Zane C.Hodges, "You know the Law" in "The Rich Young Ruler"]
- 4 R.T. France, MATTHEW in the "New Bible Commentary" (IVP, Nottingham, UK, 2011) P.930
- 5 Zane Hodge, "Aftermath and Surprise", in "The Rich Young Ruler"
- 6 Leon Morris, *Ibid*, p.459
- 7 Bill McKeever, "Are you abiding a Celestial law?"
- 8 R.T. France , p.912
- 9 D.A Carson, *The Sermon on the Mount* (Carlise, UK, Baker House, 1994) p.59-60
- 10 同上。
- 11 John Farkas, "BE YE PERFECT AND THE GRACE OF GOD"
- 12 David Peterson, HEBREWS in the "New Bible Commentary" (Nottingham, England, IVP, 2011) P.930
- 13 「きよめられた」「聖なるものとされた」と「全うされた」はヘブル人への手紙では事実上の同義語です。 [The Reformation Study Bible, English Standard Version (FL, USA, Ligonier Ministries, 2005) p.1791]
- 14 F.F Bruce, *The Epistle to the Hebrews* (NTCNT, Grand Rapids, Eerdmans,1990) p.248